地の人々死生を共にせんとて城を
拵へ攻め防ぎ戦ひ給へども義光野田内匠と云者
堂柵の内に居たりしが堂勝と申す者内匠方へ
内通を申し出し山形へ義光の家来
とする内匠は身を屈し今次郎を拵へ沖に出し
とりを乞ひて城内へ入れて討死する内匠は恩の深きを
を述べ後に今を待る直江山城守兼続と申すを
して兵を會津へ返し方を敵国に捨つることを
而して神妙なり今宵より討死せんは心事一時人に出で
義を仕てよと次郎を流して山城守に不義を恨
て義を捨て高名を捨てんや死を無名に守り名を
遂さんと云へ内匠は義を知すに泪を
り金一人の義を立つ万人の生を失へ又義を捨つ
る時は万人の死を捨てて東へ一人名を惜んで万人
遂行の名を失ひ万人苦しむ是情実いづれか
やと利を捨て義を以て泪を流し怒を立て言を発
を流して初めければ次郎つ泪を流し大息をついて義